



浦城 いくよ

（井上靖記念館特別相談役・井上靖長女）

渡岸寺の十一面観音

父はいつの頃からか渡岸寺（向源寺）の国宝十一面観音の写真を書斎の机の横の棚に立て掛けていた。記念館の応接間の壁面にも、十一面観音の写真が額に入れて掛けられている。今回は、渡岸寺の十一面観音について書いてみる。

父が渡岸寺の十一面観音を最初に訪れたのは、昭和四十六年五月だった。滋賀県の琵琶湖の周辺には、渡岸寺の十一面観音以外にも重要な文化財の指定を受けた十一面観音像は沢山ある。これらは長い歴史の中で戦火に見舞われ、悲運な過去を背負ったものも多い。渡岸寺も織田信長による浅井長政攻めの際、戦火のためにお堂は焼失した。しかし観音さまをあつく信仰する住職や近隣の住民は、観音さまを火の中から運びだし、土中に埋蔵して難を逃れたと伝えられている。十一面観音の多くは、集落の少数の人たちによって厳しく守られてきたので、

現在になっても何事もなく伝えられている。

「観音さまはまだ修行中の菩薩の身分であり、多くの民衆の苦しみや悩みを救うことで如来になる仏さまである。沢山の民衆は救われたがっており、観音さまは救いたがっておられる。だから秘仏としてではなく、民衆の前に公開してあげるべきだと思います」と父は琵琶湖周辺での度重なる講演を通して、土地の人々に十一面観音の公開を勧めた。

何年間に一度の公開、長い所では六十年に一度公開されるといった秘仏の観音さまもある。父の努力の甲斐もあって、秘仏とされていた観音さまが、次第に公開されるようになった。今では湖北の観音巡りツアーもあり、観音巡りをする人々も多いと聞いている。それぞれの観音さまのお堂もだんだん立派なものに変わってきた。

渡岸寺の寺伝によると、天平八年（七三六年）に天然痘が流行した時、時の聖武天皇は僧泰澄に除災祈禱を命じたという。泰澄は一本木造り

で高さ一七七センチの十一面観音像を彫り、寺を建立し、息災延命、万民豊樂の祈禱を行い、その後憂いは絶たれたという。

観音さまが、信者たちによって、古くからいろんな方法で守られてきた話を聞いて、父は、初めは作家としてその守り方に興味を持ったようである。しかし、それぞれの観音さまの異なった美しいお顔や、魅力的な体型の姿を何度も拝見しているうちに、次第に魅せられていった。特に渡岸寺の国宝十一面観音の姿に強くひかれたそうだ。

海外に旅行に出る前や後、お正月や賞を頂いた時など、また、周りの人や知人の身の上に特別のことが起こった時などには、その人を連れてお礼やお願いに渡岸寺まで出掛けて行った。

父は何か特別な日には、家の仏壇に手を合わせ、毎年お盆やお彼岸には伊豆の湯ヶ島へお墓参りに出掛けた。特に信仰心を強く持つてはいなかったと思われるが、十一面観音にはなぜか特別だった。「お参りをすると必ず良い事があ」とよく言っていた。

ある時、ある新聞社の担当記者と共に渡岸寺にお参りに出掛けた。すると、なかなか決らなかった自分の息子と娘の縁談がなんと二つともすぐに決まり、喜んで矢先に、今度は一緒にお参りに行った記者本人の結婚も決まった。驚くとともに「十一面さんにお参りしたのでご利益があった。すごいものだ」とますます十一

面さんへの信仰心は厚くなっていったが、家族は悪い事ではないのでニコニコと聞き流していた。井上家では「十一面さん」と言えば渡岸寺の十一面観音を指すのである。

秘仏の観音さまが公開されるようになって、参拝者も増えていくなかで、今度は、パリで渡岸寺の十一面観音を展示してフランスの人たちに見てもらおうという話が持ち上がった。

何百年もの間、大事に秘仏としてお守りしながら、共に暮らしてきた土地の信者の人たちは「観音さまを一人では外国などに行かせられない」と、私も一緒に子供をする、私も、私もと十一面観音さまへの信仰心の厚いお年寄りのおじいさん達ばかり何十人もが声を上げたと聞いている。父は何十人もが声を上げたおじいさん達ばかり「おじいさん達ばかり何十人も連れて行くことは出来ないよなあ」と困惑した顔で冗談交じりに言っていた。観音さまを守っている人たちは八十歳代の人が多く、なかには九十歳を超えた人もいて、お堂の観音さまをお守りしている。観音さまのご利益もあり長生きなのである。結局土地の人たちの要望により、この話は取りやめになってしまった。

昭和五十八年十月、渡岸寺観音堂のある向源寺の境内に、父の文学碑が建立された。晴れ男の父の行事とあって、勿論その

日は朝から良い天気であった。父母や私の主人、長男も出席して除幕式が行われた。私はその時幕を引いたことが思い出される。

「慈眼 秋風 湖北の寺 井上靖」

と父の字で書かれている碑文が、大きな丸みをおびた石に彫られていた。どつしりとした、温かい碑が幕の下から現れた。この日初めて父から何度も聞いていた十一面観音を拝顔した。

除幕式の後、まだ元気だった父に連れられて、母や主人、息子、そして父が所属していた「焰の会」の方々と医王寺、鶏足寺、

赤後寺とそれぞれ特徴のある観音さまを訪れた。父はそれぞれの観音さまを短く説明してくれた。

父は渡岸寺を起点として大体いつもこの順で回っていた。連絡がいつており、お堂を管理している土地のお母さんたちが力ギを持って開けに来てくれた。

途中のあぜ道や畑の細い道には、紫、赤紫、水色、白と色とりどりのアジサイの花が見事に咲いていた。のどかな農道の風景に大小の花が見事にマッチして観音さまより印象深かった。以来十一面観音を思い出す時は必ず、アジサイの咲いているあぜ道も一緒に浮かんでくる。

平成四年四月十七日、渡岸寺観音堂と滋

賀県高月町の国宝維持保存会の合同で父の追悼法要が行われた。母、私、妹、叔母、知人たちが大勢の人が参加してくださった。その後収蔵庫の中には永代供養のお札が父と親しかった知人二人と並んで置かれたが、平成十九年に観音堂の建て替え工事のため、今は押入れの中にしまわれてしまいい、とても淋しい。

平成五年に高月図書館が「ふるさと創生事業」の一億円を基に作られ、その二階には「井上靖記念室」が設けられた。その書斎の窓からは観音堂が望める方向に作られており、町の人たちの父への思いが伝わっ



仕事机の横に置かれた十一面観音写真



茉莉花の像と高月図書館
(写真提供 高月図書館)

てくる。図書館の屋根は十一面観音にちなんで十一の斜面で出来ている。庭には朝日新聞に連載した十一面観音の出てくる小説「星と祭」の挿絵を描かれた彫刻家の舟越保武氏の「茉莉花の像」がやさしく建っている。



平成二十六年 事業報告

● 第一回企画展

井上靖 人と文学Ⅴ 『鬨牛』『狼銃』の世界

四月二十六日～七月二十七日

◆ 展示の主な内容

井上靖は戦後、毎日新聞社に勤務する傍ら、昭和二十五年に『鬨牛』で第二十二回芥川賞を受賞しました。

井上靖自身が「創作活動の上では、この時期が私の青春」と語る時期に書かれた詩と小説を『鬨牛』『狼銃』の二作を中心に紹介しました。また、「生涯で最も忙しい、最も緊張した年であった」と語られる昭和二十五年に書かれた初期の作品『比良のシヤクナゲ』『漆胡樽』『通夜の客』等も紹介し、井上文学の原点を詩と小説双方から探りました。

◆ 観覧者数

一 般 六五二人／高校生 二人
中学生以下 二七一人／免除 八五七人
合 計 一七八二人



● 第二回企画展

映像化された井上作品Ⅰ

八月二日～十一月十六日

◆ 展示の主な内容

井上靖の小説には映画やドラマ、演劇の原作になったものが少なくありません。

近年公開された『わが母の記』は記憶に新しいですが、映画化第一作は芥川賞受賞のはるか前、昭和十二年に千葉亀雄賞を受賞した『流転』です。

『流転』連載時の日本画家、堂本印象による挿画（原画）を展示し、また他に原作品や書籍、映画の解説、スチール写真等を展示し、原作の魅力と共に映像化された井上作品の魅力伝えました。

◆ 観覧者数

一 般 六八五人／高校生 二人
中学生以下 八七人／免除 九五九人
合 計 一七三三人



● 第三回企画展

井上靖 初出掲載誌

十一月二十二日～二月十五日

◆ 展示の主な内容

井上靖は多くの新聞連載小説を発表し、新聞小説の名手としての評価も高いですが、芥川賞を受賞し本格的に文壇にデビューすると、主要な文芸誌のみならず週刊誌や婦人雑誌に作品発表の場所を得、大いに健筆を振りました。

当館所蔵の資料と共に文学資料友の会所蔵の雑誌類を展示し、また掲載誌や単行本、挿画も紹介し、精力的に執筆した作家の姿を伝えました。

（共催）旭川文学資料友の会

◆ 観覧者数

一 般 一四八人／高校生 二人
中学生以下 二二人／免除 二五五人
合 計 四二六人



● 第四回企画展

井上靖と西域紀行

二月二十一日～五月十七日

◆ 展示の主な内容

井上靖は、学生時代から西域に興味を持ち始め、生涯にわたる大きなテーマとし探し続けました。

中国だけで二十七回、その他、中央アジアや西アジアの広範囲でみると、西域には四十回以上訪れていることとなります。本展では、井上靖が西域を訪れた折に書かれた紀行記や詩を中心に紹介する他、井上靖自身が撮影した写真、興味を持って読んだ書籍等を展示し、井上靖の西域に対する思いを伝えました。

◆ 観覧者数

一 般 四〇〇人／高校生 二人
中学生以下 六六人／免除 四三二人
合 計 九〇〇人



● 企画展関連事業

◆ 井上靖講座

開催中の企画展の見どころの紹介や解説、映画上映を行いました。

- ① 井上靖 人と文学 五月十七日
- ② 映像化された井上作品Ⅰ 八月二十三日
- ③ 井上靖 初出掲載誌 十二月六日
- ④ 井上靖と西域紀行 三月七日

● 普及事業

◆ 文学講演会（第一回）

『比良のシャクナゲ』と詩と物語の融合のコードを解く

井上靖研究をライフワークとし『若き日の井上靖研究』『井上靖—グローバルな認識—』などの著者である、藤澤全氏をお招きし、井上靖の岳父をモデルとして描いた小説『比良のシャクナゲ』についての講演を開催いたしました。

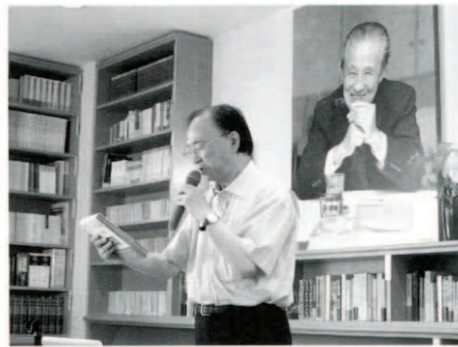


とき 六月二十八日
講師 藤澤 全氏（日本大学元教授、井上靖研究者）
共催 井上靖ナカマドの会

◆ 文学講演会（第二回）

北海道ゆかりの作家／八木義徳の文学

戦前から戦後にかけて小説家として活躍し、俳句にも打ち込んだ北海道ゆかりの作家、八木義徳の人と作品について、北海道文学館副理事長の平原一良氏をお招きし講演会を開催いたしました。



とき 七月十九日
講師 平原 一良氏（北海道文学館 副理事長）
共催 井上靖ナカマドの会

◆ 井上靖短編小説を読む（全四回）

井上靖の短編小説を取り上げ、朗読と解説を行いました。

- ① 『断雲』 六月七日
 - ② 『高天神城』 十月四日
 - ③ 『洪水』 十一月八日
 - ④ 『風』 十二月七日
- 朗読 塩尻 曜子氏（井上靖ナカマドの会会員）
講師 平野 武弘（当館職員）

◆ 生誕日無料開館ミニコンサート

五月六日に井上靖が旭川で生まれたことを記念し当日は無料開館し、クラシック・サクソフォーンのミニコンサートを行って井上靖の生誕を祝いました。



とき 五月六日
講師 伊藤 嘉彦氏（サククス）
田辺 沙知氏（ピアノ）
共催 井上靖ナカマドの会

◆ 赤い実の洋燈茶会

表千家旭川地区青年部の協力による茶会を開催いたしました。

とき 六月十五日
共催 表千家旭川地区青年部
井上靖ナカマドの会

◆ 文学散歩

深川市及び芦別市の公園にある歌碑や句碑をバスで巡りながら、作者や設立の経緯、作品の解説を行い文学碑を鑑賞しました。

とき 七月五日
講師 平野 武弘（当館職員）

◆ 夏休みおはなし会（全二回）

子どもが楽しめる絵本や文学作品の読み聞かせ・語りを行っていただきました。

- とき ① 七月三十日
 - ② 八月五日
- 講師 ① 旭川おはなしの会のみなさん
② こども富貴堂のみなさん

◆ ロビーコンサート

第一部はクラシックの曲目、第二部は冒頭に詩の朗読とのコラボレーションのあと、日本の歌曲を演奏しました。

- とき 八月三十日
- 講師 山口 健氏（チェロ）
中島 幸恵氏（ピアノ）
朗読 杏澤 彰俊氏（旭川詩人クラブ）



◆映像の世界

映像化された井上靖作品の中から昭和三十六年松竹製作の映画『狐銃』を上映しました。上映時間を午後五時半からとし、いつもとは違う雰囲気の中での上映会となりました。
とき 十月八日

◆文学講座

井上靖文学の理解を深めるため講師をお招きし、井上作品について多方面からの考察や解説を行っていただきました。

◆第一回『ある偽作家の生涯』を読む

～人間や運命に対する井上靖のものの見方について
天才の陰に生きた一画家の悲劇を描く本作品を、松本清張作品『真贋の森』との比較を交えながら解説いただきました。
とき 九月二十七日

講師 石本 裕之氏(旭川工業高等専門学校教授)



◆第二回「戦後文学と井上靖」

作家・井上靖が執筆活動以外にペンクラブ会長、近代文学館設立運動等にかかわり、戦後文学界をけん引してきた足跡を講

演いただきました。

とき 一月二十四日

講師 片山 晴夫氏(北海道教育大学旭川校特任教授)



◆読み語り 耳と心に響くお話

小学生から大人までを対象とした、教科書に掲載された作品と井上靖の詩やエッセーの読み語りを行っていただきました。

とき 十月二十五日

講師 読み語りの会 空とぶペンギン

～声の贈り物～の皆さん

◆共催事業

◆赤い実の洋燈読書会

～共催 赤い実のランプふあんクラブ
とき 毎週土曜日
開催回数 三十三回
テキスト

- ①北の海 ②ある偽作家の生涯
- ③楊貴妃伝

◆寄贈資料を企画展に活用

旭川市在住の元小学校教諭、西條秀人氏より「多くの方にその魅力を知って欲しい」ということから、中国・西域に関する貴重な資料の寄贈を受けました。(書籍・地図・現地での民芸品等 合計二百点以上) 西條氏は現役時代から何度もかの地を訪れ、資料収集や研究をされています。今回、寄贈していただいた資料の一部は、五月十七日まで開催された企画展「井上靖と西域紀行展Ⅰ」に出展され、来館した皆様の目を楽しませていただきました。

ということから、中国・西域に関する貴重な資料の寄贈を受けました。(書籍・地図・現地での民芸品等 合計二百点以上) 西條氏は現役時代から何度もかの地を訪れ、資料収集や研究をされています。今回、寄贈していただいた資料の一部は、五月十七日まで開催された企画展「井上靖と西域紀行展Ⅰ」に出展され、来館した皆様の目を楽しませていただきました。



展示された兵馬俑の置物 (高さ約15cm)

第三回 井上靖記念館

◆青少年エッセーコンクール

東京世田谷にあった井上靖の書齋・応接間が、生まれ故郷、旭川に移転再現されたことを記念し、井上靖の作品を後世に読み継ぐことを目的として、北海道新聞社と共催し、平成二十四年度から開催しています。今年度のテーマは「ブ・カ・ツ」、全国の中学生・高校生とこれに準じる年齢の青少年を対象に応募総数七二五編の中から厳正な審査の結果、優秀作品十一編を選考、表彰しました。

受賞者は、◇中学生の部▽最優秀賞・井上靖ナカマドの会賞 藤原陽香(旭川市立神楽中1年)「『ブカツ』を楽しむ」▽優秀賞 畑山寛英(当麻町立当麻中3年)安西まどか(石狩市立花川南中1年)▽佳作

中村朋泉(旭川市立神居東中2年) 山田華菜(江別市立大麻中2年)

◇高校生の部▽最優秀賞 鈴木ちひろ(おといねつぶ美術工芸高3年)「お茶会をいたしましょう」▽優秀賞 菊池麻衣(同校3年) 高橋諒子(同校3年)▽佳作 小林大樹(同校2年) 小笠原航洋(同校2年)▽井上靖ナカマドの会賞 矢沢光(旭川東栄高2年)

表彰式後、審査員長の吉増剛造氏による記念講演会を行いました。優秀作品は表彰式から一か月間、当館にて展示しました。また、優秀作品集も製作・配布しました。



審査員長 吉増 剛造氏(詩人)
審査員 平原 一良氏(北海道文学館副理事長)
審査員 鳥居和比徒氏(北海道新聞社文化部長)

平成 26 年度のあゆみ

- 4月26日 企画展「井上靖人と文学Ⅴ－『鬮牛』展
(～7月27日)
- 5月6日 生誕日無料開館 ミニコンサート
- 5月17日 井上靖講座①「井上靖 人と文学Ⅴ」
- 6月1日 無休開館 (～9月30日)
- 6月7日 井上靖 短編小説を読む①『断雲』
- 6月15日 赤い実の洋燈茶会
- 6月28日 文学講演会『比良のシャクナゲ』
- 7月5日 文学散歩
- 7月19日 文学講演会
「北海道ゆかりの作家～八木義徳の文学」
- 7月30日 夏休みおはなし会①
- 8月2日 企画展「映像化された井上作品Ⅰ」展
(～11月16日)
- 8月5日 夏休みおはなし会②
- 8月23日 井上靖講座②「映像化された井上作品Ⅰ」

- 8月30日 ロビーコンサート
- 9月27日 文学講座①『ある偽作家の生涯』を読む
- 10月4日 井上靖 短編小説を読む②『高天神城』
- 10月7日 特別相談役来館
- 10月8日 映像の世界
- 10月25日 読み語り 耳と心に響くお話
- 11月3日 文化の日無料開館
- 11月8日 井上靖 短編小説を読む③『洪水』
- 11月22日 企画展「井上靖 初出掲載誌」展 (～2月15日)
- 12月6日 井上靖講座③「井上靖 初出掲載誌」
- 1月24日 文学講座②「戦後文学と井上靖」
- 2月7日 井上靖 短編小説を読む④『風』
- 2月21日 企画展「井上靖と西域紀行」展 (～5月17日)
- 2月26日 大人のためのおはなし会
- 3月7日 井上靖講座④「井上靖と西域紀行」

平成二十七年度の「案内

企画展

- 「井上靖 人と文学Ⅵ『水壁』の頃」展
五月二十三日(土)～七月十二日(日)
- 「井上靖と利休『本覚坊遺文』の周辺」展
七月十八日(土)～十月四日(日)
十月十日(土)～一月十日(日)
一月十六日(土)～
- 「井上靖と美術」展
- 「鈴木正輝」展

講座・講演会

- 井上靖講座
①六月十三日②八月二十九日③十一月十四日④未定
- 文学講演会 (二回)
①七月二十五日②九月五日
- 文学講座 (三回)
九月・十一月・一月

青少年エッセーコンクール

- 募集開始 六月中旬 入賞作発表 十一月

普及事業

- 文学散歩
夏休みおはなし会 七月四日
- ロビーコンサート 七月二十九日・八月四日
- 映像の世界 八月二十二日
- 読み語り 耳と心に響くお話 十月二十四日
- 大人のためのおはなし会 十月三十一日
二月二十五日

読書会

- 井上靖 短編小説を読む
①五月三十日『天正十年元旦』②十月十七日『孤猿』
③十二月十二日『白い手』④二月十三日『永泰公主の頸飾り』
- 赤い実の洋燈読書会 (毎週土曜日)
「赤い実のランプふあんクラブ」との共催読書会

企画展の会期及び自主事業等の開催日は変更となる場合がありますので、ご了承ください。
詳細については、当館までお問い合わせください。
なお、当館ホームページでもご案内しています。
URL <http://moue-abs-tomonokai.jp>

◇年度別観覧者数◇

年度	人数	年度	人数
平成5年	12,703	平成17年	7,772
平成6年	20,385	平成18年	6,331
平成7年	16,599	平成19年	7,267
平成8年	14,893	平成20年	6,740
平成9年	14,639	平成21年	6,003
平成10年	16,832	平成22年	6,085
平成11年	15,848	平成23年	5,830
平成12年	13,486	平成24年	8,450
平成13年	11,450	平成25年	5,088
平成14年	12,475	平成26年	4,518
平成15年	13,496	総入館者	236,967
平成16年	10,077		

●編集後記●

平成二十五年度から、井上靖先生のご遺族に貴重な資料をお借りし、メインとなる企画展を開催しています。昨年度は、第一回千葉亀雄賞を受賞した『流転』連載時の挿画をお借りし、作品を掘り下げながら、日本画家・堂本印象の手による美しい原画の数々を展示する事ができました。
また、今年度は、初披露となる資料を中心とした企画展の開催も計画しています。
貴重本や関係資料等の寄贈など、当館の運営が多くのの方々によって支えられておりますことを、スタッフ一同心より感謝申し上げます。

